

# 千葉県感染症発生動向調査情報

2018年 第42週 (10/15-10/21) の発生は？

## 1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数	42週	41週	40週	39週
小児科	18	18	17	18
眼科	5	5	5	5
インフルエンザ*	28	28	26	27
基幹定点	1	1	1	1

上段:患者数  
下段:定点当たりの患者数

「定点当たりの患者数」とは  
報告患者数/報告定点数。

定点	感染症名	千葉県					千葉県 10/8-10/14 41週
		注意報	10/15-10/21	10/8-10/14	10/1-10/7	9/24-9/30	
			42週	41週	40週	39週	
小児科	RSウイルス感染症		3 0.17	4 0.22	5 0.29	6 0.33	97 0.72
	咽頭結膜熱		3 0.17	1 0.06	1 0.06	4 0.22	35 0.26
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		19 1.06	22 1.22	19 1.12	20 1.11	195 1.44
	感染性胃腸炎		60 3.33	69 3.83	57 3.35	35 1.94	340 2.52
	水痘		0 0.00	2 0.11	1 0.06	0 0.00	26 0.19
	手足口病	○	29 1.61	27 1.50	40 2.35	15 0.83	168 1.24
	伝染性紅斑	○	12 0.67	8 0.44	8 0.47	7 0.39	76 0.56
	突発性発しん		14 0.78	13 0.72	14 0.82	14 0.78	50 0.37
	ヘルパンギーナ		8 0.44	8 0.44	8 0.47	15 0.83	64 0.47
	流行性耳下腺炎		3 0.17	4 0.22	1 0.06	2 0.11	18 0.13
インフル	インフルエンザ(高病原性鳥インフルエンザを除く)		8 0.29	2 0.07	2 0.08	2 0.07	53 0.25
眼科	急性出血性結膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	1 0.03
	流行性角結膜炎		2 0.40	5 1.00	4 0.80	4 0.80	34 0.97
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	無菌性髄膜炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	2 0.22
	マイコプラズマ肺炎		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	3 0.33
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00
	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00	0 0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

## 2 全数報告対象疾患(15件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	40歳代	細菌の分離・同定、薬剤耐性の確認及び起因菌の判定	百日咳	女性	10歳代	病原体遺伝子の検出
				百日咳	女性	30歳代	抗体の検出
梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出	風しん	男性	30歳代	病原体遺伝子等の検出
梅毒	男性	40歳代	血清抗体の検出等	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子等の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	男性	40歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	男性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	女性	20歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	女性	20歳代	病原体遺伝子の検出
百日咳	女性	10歳未満	病原体遺伝子の検出	風しん	女性	50歳代	病原体遺伝子の検出

・第42週は、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(16)、梅毒2件(21)、百日咳6件(185)、風しん6件(72)の報告があった。

※ ( )内は2018年の累積件数。但し、累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

## 定点当たり報告数 第42週のコメント

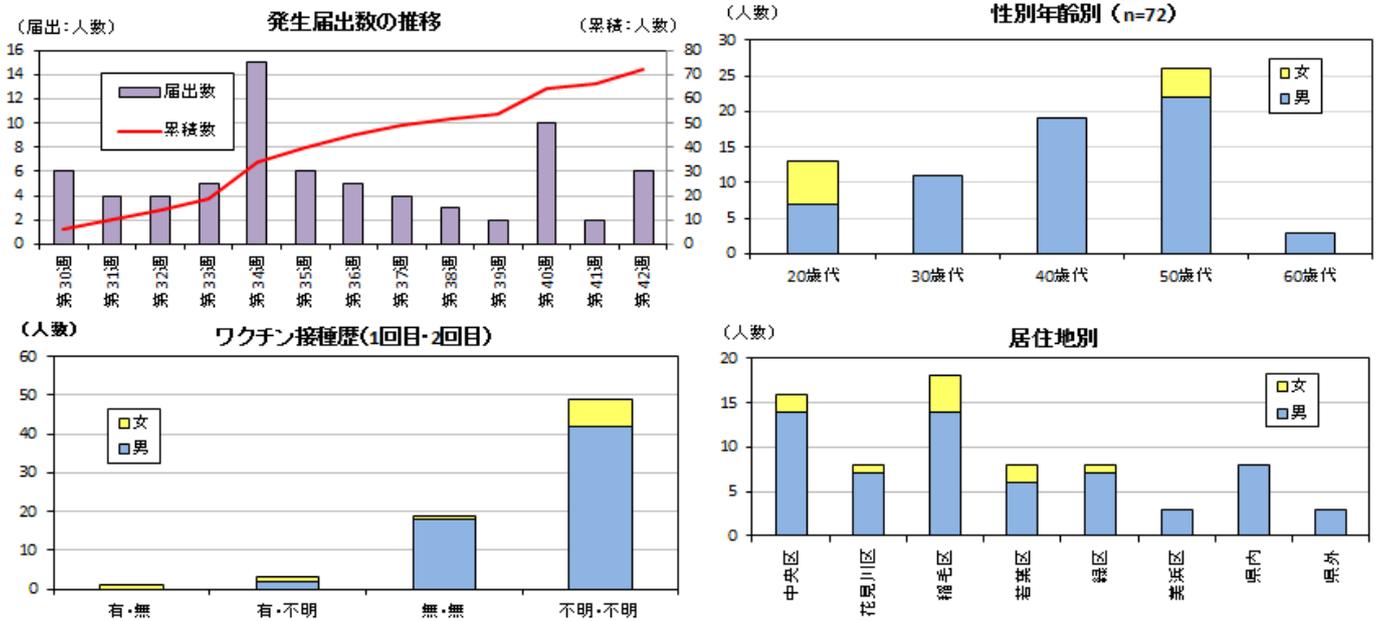
<手足口病>前週から若干増加し1.61となった。過去10年の同時期と比べるとやや多め程度だが、稲毛区で流行発生警報開始基準値を上回っている。

<伝染性紅斑>前週から増加し0.67となった。過去10年の同時期と比べると多い。稲毛区で流行発生警報開始基準値と並んでいる。

■ トピック ■

<風しん>

全国レベルの第41週の累積報告数は1289件で、昨年の同時期と比べるとおよそ17倍となっています。都道府県別では東京都、千葉県、神奈川県の前で多く報告されており、関東地域で多く発生しています。千葉市の第42週は6件の発生届があり、2018年の累計は72件となりました。性別では男性が86.1% (62名)、女性が13.9% (10名)で、いずれも成人であり年齢階級別では50歳代 (36.1%: 26名)、40歳代 (26.4%: 19名)、20歳代 (18.1%: 13名)の順で多く、40歳代~50歳代が中心となっています。居住地別は、稲毛区 (25.0%: 18名)、中央区 (22.2%: 16名)の順で多くなっています。ワクチン接種歴は無し又は不明の症例が9割を超えています。



<伝染性紅斑>

全国レベルの第41週は、前週より減少しましたが、過去10年の同時期と比べると多くなっています。都道府県別では宮城県、神奈川県、東京都の前で多く報告されています。千葉県は全国レベルと比べると多めとなっています。千葉市では第36週からほぼ連続して増加しており、第42週は過去10年の同時期と比べると多くなりました。区別の発生状況は稲毛区 (2.0/定点)で流行発生警報開始基準値と並び最多で、同区の6歳で最も多く発生報告がありました。2018年第1週から第42週の累積報告数は91件で、性別では男性が54.9% (50名)、女性が45.1% (41名)で、年齢階級別では4歳 (17.6%: 16名)、5歳 (13.2%: 12名)、3歳 (12.1%: 11名)の順で多くなっています。

